

インフルエンザの話

中央検査部 木浦 正樹



インフルエンザとは・・・

インフルエンザウイルスが原因で起こる病気で、ウイルスが付着したものを触ったり、空気中に漂っているウイルスが口や鼻に入り込んで感染します。突然の発熱や全身の倦怠感などの症状が特徴です。伝染性が非常に強く、症状が激しく重症化しやすいなどから、普通のかぜとは区別すべき病気です。特に高齢者や乳幼児は重症化しやすいので注意が必要です。人では、A、B、Cの3つの型があり、主に「流行」を起こすのはA型とB型です。日本では、11月下旬から12月上旬にインフルエンザのシーズンが始まり、1～3月にピークを迎えて、4～5月にかけて患者数は減少します。

予防対策1. インフルエンザ流行前に

- ・インフルエンザワクチンを接種しましょう。効果は、一般的に接種して2週間後から約半年程度です。

予防対策2. インフルエンザが流行したら、特に心がけること

- ・うがい、手洗いの励行、咳エチケットを守ることが基本です。
- ・「咳」などの症状のある方は、周りの方へうつさないために、マスクを着用しましょう。
- ・規則正しい生活を送り、十分な休養、バランスの良い食事をとって体力や抵抗力を高めましょう。
- ・人込みや繁華街への外出は控えましょう。外出する場合は、マスクをつけ予防しましょう。

インフルエンザの検査法

当院では、「迅速診断法」という診断キットを使い検査をしています。主に、鼻から綿棒を使い（検体）を取って、インフルエンザウイルスがいるかどうかを調べます。A型とB型のどちらも検査することができます。約15分以内で結果を得ることができます。ただし、発症直後に検査した場合などでは検体の中にあるインフルエンザウイルスの量が少ないために、感染していても陰性になる場合があります。医師は、検査結果だけでなく症状等も含めて総合的に判断し、治療法を選択しています。

インフルエンザの治療

- ・抗インフルエンザウイルス薬は、ウイルスの活動を抑え、病気の期間を短縮し合併症を減らします。
 - ・症状を抑えるための対症療法とは、鼻水・熱・咳・のどの痛みなどの症状を抑える薬を使用することです。
 - ・安静にして休養をとりましょう。特に十分な睡眠が大事です。また、水分も十分に補いましょう。
- インフルエンザの場合、風邪薬は全く効きません。むやみに熱を下げると逆効果になってしまいます。早めに受診をして、的確な治療をしてください。